



CQM(超短期経済予測モデル)

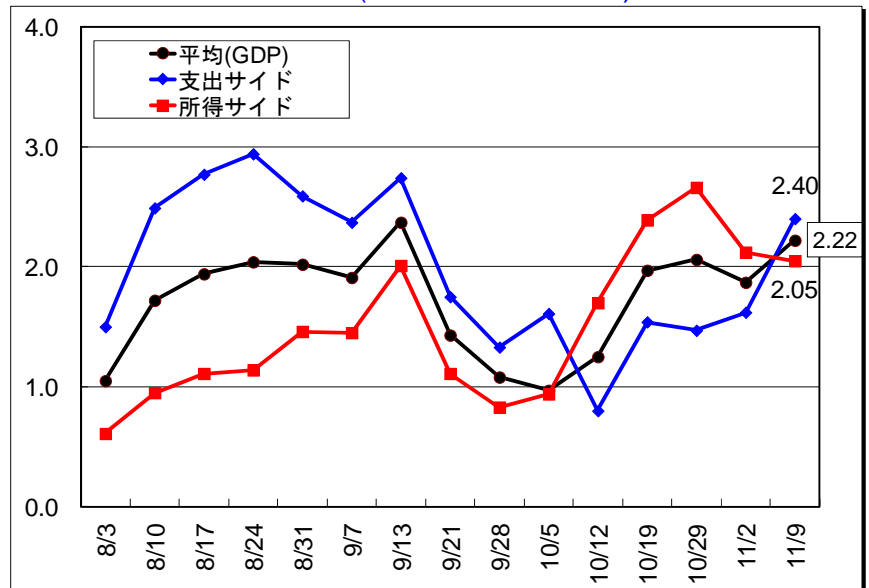
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2012年11月9日)

ポイント

- ▶今週のCQMは2012年10-12月期の支出・所得両サイドからの平均実質GDP伸び率を2.22%と予測している(図表)。図表から10月半ば以降に上昇トレンドが形成されているのがわかる。
- ▶CQMによる今期のヘッドラインインフレ予想率は3.3%だが、来期には1.6%にまで低下する。インフレの加速化の兆候はみられない。
- ▶オバマの再選が決まるや、次の2日間に株価は3%以上の大幅な下落となり、市場のオバマ政権への失望がみてとれる。
- ▶オバマの勝利がテクニカルキャンペーンの成功によるものであり、彼の次の4年間の新しいアジェンダは示されなかった。
- ▶オバマは謙虚になり、拳党体制で問題の解決に望むことが不可欠となる。しかし、すでに"Fiscal Cliff"で躓いている。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q4 (%，前期比年率換算)



<オバマの勝利に失望した市場。何故ロムニーは負けたのか？>

11月9日のCQM予測は9月の消費者信用、貿易収支、製造業と卸売業の在庫、10月の輸出入価格を更新した。今週のCQMは2012年10-12月期の実質GDP伸び率を支出サイドでは1.62%から2.40%へ上方に修正し、所得サイドでは2.12%から2.05%へと下方に修正した(図表)。両サイドからの平均実質GDP伸び率は1.87%から2.22%へと上方修正された。

11月6日にオバマが再選となるや、株価は2日間つづけて大幅に下落した。この2日間でNASDAQ、SP500、DOW株価指数はそれぞれ3.9%、3.6%、3.3%下落した。市場のオバマ政権への失望が良く表されている。9日に早速、オバマ、ベイナード下院議員がそれぞれ"Fiscal Cliff"回避のために演説を行ったが、今のところ妥協点はみつきりそうもない。

選挙1週間前まで支持率で優勢だったロムニーは何故負けたのであろうか？主な理由として、(1)ブッシュ前政権批判、ロムニーへのネガティブキャンペーンが効果的に働いた。(2)ロムニーがベンガジ米領事館のテロ攻撃のオバマによる隠蔽の追求を弱めた。(3)ハリケーンSandyにより、ロムニーのモーメンタムがそがれ、一方オバマの大統領らしい姿が人々にTV等で映し出された。(4)このSandyによる被害の中、NJ州知事のクリス・クリスティーのオバマへの抱擁がオバマの拳党体制のイメージを作り出した。(5)低下すると思われた2012年の黒人、ヒスパニック、若者の投票率が落ちなかった。

オバマの勝利は、次の4年間のアジェンダを掲げての勝利ではなく、テクニカルなキャンペーンの成功であった。これからのオバマは大統領としての歴史・遺産を残す必要がある。そのためには、拳党体制が重要となる。傲慢なオバマが謙虚になり、まずかれの方から共和党に歩み寄れるかが焦点となる。さもなくば、"Obama won the battle, but lost the war"となり、次の米国の4年間は暗いものにならざるをえない。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550